

当事者の声

月刊みなねっと※ (2014/8号)読者のページから転載

※公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会の月刊誌 ホームページ www.seishinhoken.jp

◆山形県とつづー本人(50代)
そううつ病で10年間入院した。病院の関係者のだれもが「この人は一生病院から出られないかも」と思うくらいひどかった。主治医が変わり薬が変わって、みちがえるように良くなった。退院してデイケアに通い、今年で7年になった。4月からの法改正で、デイケア利用は週5日となった。私はその1日を就労訓練施設に通っているのだ。障害者の就労を目的にさまざまな訓練をおこなっている。草むしり、ワックスがけ、商品の受け取り、とてもとても楽しい自由な世界がそこにはある。いつか夢みていた社会復帰がしてみたいと思う。今日このごろである。

◆広島県 フーちゃん 本人(20代)
風
10センチしか開かない窓から吹く風が
カーテンを大きくはためかせた。病室の窓から見える青い空。外に出ればきつと
もつと強い風が
私の心に吹きつけてくるだろう。それに耐えられずようように。もしかしたら汗した体に強い風が心地よく感じられるかもしれない。そんな時を願って
カレンダーの日付に
Xをつけて消していく。
遠い空から吹いてくる風を
想いながら。

◆東京都 だらつくま生活 家族30代
私が生まれる前から、母は統合失調症と共に生きてきたことを、つい半年前に初めて知りました。
物心ついた頃から、母は幻聴や妄想と現実が区別できず、突然怒り出す母を前に、ただ必死にだめをこししかできできない自分がいました。父は10歳でガンにより亡くなり、その後は母子家庭で陽性症状と陰性症状をくり返す母と向き合いつつ、必ずこの母の病気に対処法はみつかるはずと信じて暮らしてきました。
周囲の冷やかな視線や、普通の生活をおくるのができないことに悩みつつも、通院を拒否し続ける母は、半年前乳がんがきっかけとなり、発病後34年経って初めて、精神科の先生とつながることができました。
現在私は、1歳の子供を育てながらフルタイムで仕事をし、母の介護をしています。小さな頃、母の様子を誰にも相談できず、精神科の母を医療にアクセスできなかったことを、統合失調症の母を持つ子供だからこそ問いかけたらという気持ちから、今春より大学院の博士課程へも進学することになりました。
妄想とたたかい、何度となく私をどなりつけたり手をあげた母に対し、まだ全てを許すことが難しいと思うときもありますが、母の苦しみや悲しみは判りませんし、それらを自分なりに受けとめてきた自信があります。
母のためだけでなく自分のためにも学びつづけたい。いつか母がまっすぐ私を見てくれる日を信じて。



◆東京 義足のヴィーナス(8/4)で、病や事故で足を失った女性が、その喪失に打ちひしがれ、家に閉じこもりがちだったが、障害を持つ人、支援の人達と出会い、その喪失を受け入れてスポーツ・アート等で目を見張る活躍をして、スタジオで夢を語る姿に心打たれた。彼女らを支えた家族もすごいと想った。
この番組では見えない障害の精神障害者も素顔で登場する。人はときに苦難に襲われて挫折はしても、決してあきらめない意志を貫けば、自分らしく生きられる道は開かれるに違いない。

編集後記

ひと夏に、カミキリムシ2種とエダナナフシ(ネットで見るまで名さえ知らなんだ)と珍しい昆虫が飛来した年もあったのに、今年はいっつか見たキツネもキジも含めて珍客を見ない。ムカデとカメムシが少なかったのは良かったけれど...
工房にある枇杷の樹も結実しなかった。自然のサイクルは年により小さな変化があるようだ。ここ数年変わらぬことは、松枯れ病で茶黒く立ち残っている多くの松が毎日目に入る。赤松であろうか、茶枯れた長い松葉の全てが下向きに垂れているのは気味が悪いほどである。黒松のそれは姿が異なる。
昨年も10本強伐採されたのに、今年も15本ほど数えることができる。キツネやキジ、昆虫たちが生息しやすい青山の自然林であって欲しいと願うこの頃である。(ひざぎ)

〜島原手延そうめん〜
お賞上げありがとうございました
多くの皆様からご協力をおいただきました。
●57箱 (前年43箱)
●純益3.9万円 (前年2.7万円)
純益は、利用者の工賃・ボーナスの支給額改善の原資に使わせていただきます。
冬には、島原手延うどんを販売します。その折にもよろしくお祈りします。

お願い
〜賛助会員になってください〜
NPO法人そよかぜねっとは、精神しょうがいのある人たちが安心して、自分らしく、自立して暮らせる地域創りを目指し、就労継続支援B型事業「やすらぎ工房」の運営、啓発・広報、地域交流活動を行っています。
一人でも多くの方のご理解とご支援を願っています。
年会費：個人2千円・団体3千円
〜ご賛同頂ける方は、下記電話までご連絡ください〜
払込用紙(手数料不要)を送らせていただきます。
TEL・FAX 0794-85-9990

そよかぜねっと通信

就労継続支援B型事業所 やすらぎ工房

〒673-0521 三木市志染町青山1丁目26番地
TEL・FAX 0794(85)9990
yasuragi-koubou@maia.eonet.ne.jp

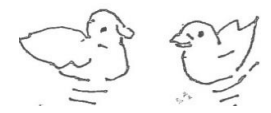
足元から障害者権利条約を生かすために

「60歳からの青春」

理事長 伊東久雄

「60歳からの青春、精神科病院40年を経て」というドキュメントテレビを観た(NHK・ETVハートネット 14.6.10)。10代で統合失調症と診断されて入院、症状はとつとくに安定し、もっと早く退院できたはずだったが、原発事故をきっかけに漸く世間に出たT氏は「いま浦島」と日常の変貌に驚き、唯一の家族弟と再会、亡父の墓前に祈る。一言も恨み事を言わない彼の心情を思うと、どれだけ無念でやるせなかったか。

「精神科病院の過剰収容は人権侵害」とする1968年のWHOクラーク勧告から約半世紀の現在、1年以上入院は20万人等と突出(OECD2005年Health Data)、どれだけの人がT氏のように普通の人生をあきらめさせられるのだろうか...



地域社会で自立した生活をする権利

2006年国連で採択、世界で日本が141番目に今年初め漸く批准国になった障害者権利条約の第19条に「条約の締約国は障害者が他の者との平等を基礎として居住地を選択する権利を有し...特定の生活施設で生活する義務を負わないこと、地域社会からの孤立、隔離を防止するために必要な在宅・居宅サービスその他の地域支援サービスを利用する機会を有すること...地域社会に完全に包容され、参加することを容易にする効果的かつ適当な措置を確保する」とある。

ところが、厚労省は精神科病床と長期入院患者を解消するため、空いた病床を居住施設に転換する構想検討を発表、これに対し上記の権利を踏みにじると障害者団体が検討中止の緊急アピール、抗議集会を持ち、新聞社も反対表明したが、7月1日に構想容認の報告書をまとめた。
まったく長年の隔離政策による既得権を優先し、批准したばかりの権利条約を歯牙にかけず、人生の大半を奪われる当事者の想いに寄り添わない国のその場しのぎの方針である。

「満たされた日々」に向けて

近くのA君から手紙をもらった。「自分の絵の作品を発表、行く場所もあり、すべて満たされた毎日、長年の信仰のおかげと62歳になって親亡きあとはほぼ完ぺきにできる。----」
社会福祉に支えられデイケアに通う彼が約40年の闘病の末にたどり着いた境地である。厚労省統計で「精神科病院月平均1人以上死亡退院!する(2011年)現状からすれば、ごく稀な幸運な例だろう。精神疾患が急増する中、一人でも多くの当事者がそのような日々を送られるよう支援者がそれぞれの持ち場で尽力している。

関心ある方は・・・「精神科病棟 住居転換型政策」・[検索]に詳しい

「NPO法人そよかぜねっと」
25年度 事業報告書、収支計算書等が閲覧できます。(直近3年度分)
www.hyogo-intercampus.ne.jp/v-hyogo/ → ひょうごNPO法人 →
または 県民ボランティア活動の広場 → 情報公開サイト
→ □三木市 (→ □保健・医療・福祉)
→ 指定した条件で検索する
■保健・医療・福祉を省略すれば、
→ 三木市の全法人が検索できる。
■兵庫県内の全法人が検索できる。
25年度分がアップされるのは、11月頃〜以降の予定です。



[STOP]のチラシを掲げて、病床転換施設への反対をアピールする参加者 = 東京・千代田・日比谷公園 6・26



利用者 年齢別利用人数、通所者延人数、1日平均通所者

職員 常勤職員、パート職員

ボランティアさん ボランティア(5)グループほか

アクセス 神鉄緑が丘一工房、神鉄緑が丘一公民館前

保有不動産 青山1-5 名和好子様から寄付(贈与)により取得

施設概要 (旧緑が丘が事業所管理棟) 作業室、多目的室(玄関)、休憩・談話室

~~ 左上にヒト、左下にモノ・コト、右半分にかね ~~

利用者工賃 工賃支払い人数(平均)、工賃・ボーナス総額(平均)

職員給料 給料・通勤手当・賞与

収入 訓練等給付金、会費収入、寄付金・助成金等

支出 給料・賞与・手当等、社会保険料、光熱費・通信・旅費等

別棟 喫煙ハウス、スチール物置

別棟 喫煙ハウス、スチール物置

就労継続支援B型事業 第5年度

- 年間242日開所、3,481人が利用 (1日平均利用:14.4人) 対前年+1.4人
女性の利用が極めて少ない。(右表)
(男 12.8人 女 1.6人 ・・1日平均)

神戸やまぶき財団様から(25/7月)
助成金153万円で軽乗用タント購入
同財団の初回助成金をいただき3台目の車両を配備できた。



利用者の年齢別分布等は上記チャートに示す。

1日平均利用者数(人)

1日14.4人が利用(前年比+1.4人)
延利用者数の男女比率...12.5:1

Table showing monthly average number of users from April to March, with gender breakdown.

毎日通いたくなる施設を目指して

門脇深雪(施設長)
今年度より、施設長に就任させていただくことになりました。やすらぎ工房での勤務2年目(通算3年目)で、分からないことばかりですが、関係各機関の皆様のお力を借り、職員やメンバーさんと力を合わせて「毎日通いたくなる施設」を目指していけたらと思います。

「安らげる場」の発展を 小松輝子(前理事)
任期満了に伴い、この度理事を退任させていただくこととなりました。と言いましても、やすらぎ工房との関わりは、今後は同業者として大いに連携を取らせていただければと思っております。

生活介護事業で 宮本昭男(前施設長)
やすらぎ工房から離れて3か月。現在は、生活介護事業所にお世話になっています。利用者の大半は自閉症の方々です。ここでは保護者会の結束は強く、会との連携なくして施設の運営もままならぬという感じでした。

はじめまして! 中井啓之
今年の2月から、やすらぎ工房でお世話になっております。それまでは30年間、小学校の教師をしていました。受注、組立加工、納品という慣れない仕事にとまどい、職員だけでなく、メンバーさんからも色々助けてもらいながら汗を流している毎日です。

人として成長するのは難しい... 犬飼恵美奈

早いもので、やすらぎ工房に勤務してから1年と9か月になりました。原稿を書くにあたり、約2年前と比べ、何か成長できたかな、と思いついてみましたが、何も変わってないように思います。最初の頃から何も変わらず、成長していない私を受け入れてくれたメンバーさんには感謝です。

力になりたい 北上亜矢子

このたび、NOP法人そよかぜねっとの理事に就任いたしました。支援員として働き始め、5年目になりました。そんな折、このような機会をいただき、まことに微力ですが、皆様のご助言、ご協力をあおぎ、少しでも力になればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

医療費負担にあえぐ本人・家族

「健康・高齢になってから」の不安が多い障害者
各障害者手帳を持つ人へ平成20年三木市はアンケート調査、その設問の一つ「将来の生活に不安」についての回答で多かったのが見出しの項目。精神科病院入院費は高額療養費制度を活用しても月平均11.2万円、県下病院には1万人入院、入院3か月の退院患者は4万人。
医療費負担で困窮の例 ~2013年愛知県医療費助成・健康福祉事務所資料から~
《56歳女性》・20歳途中で仕事を辞め、家に引きこもる。その後30歳頃で初診。国保料未納のため無年金。収入は作業所の工賃月3,000円。・両親はすでに他界。弟と持ち家で同居。弟に収入があり生活保護も受けられない。・歯が欠け、噛み合わせ悪く不自由。---・弟に負担をかけるので、医者にも行かず我慢。
《30代男性》・無年金。母(70歳)と二人暮らし。時々デイケア利用。母はパートを掛け持ちで必死に働くも医療費が重くのしかかる。・現在、歯科と内科に通院。生活困窮のため国保料も払えない。
《診療所職員談》・精神障害者が糖尿病になる確率は

健康者の約4倍と言われている。早期治療が大切だと思うが強要はできない。もどかしい思いです。
《精神科病院職員談》・一般診療科の医療費の負担は大きい。親なき後は生活保護にならざるを得ない。・病院で息を引き取り、無縁仏として私たちが葬る。昔話ではない。
医療費助成の例
各市に請願して重度精神障害者医療費の対象を2級まで拡大しているのは西宮市、宝塚市、尼崎市、川西市猪名川町、加古川市、高砂市、明石市、丹波市。兵庫県以外では愛知県、名古屋市、奈良県などが進んでいて、入院や他疾患受診の全額行政負担もある。
●無償か負担しやすい費用の保健の権利 (障害者権利条約第25条)
通院の精神科医療費は行政の自立支援医療費助成で比較的低い負担だが、身体合併症になりやすい精神障害者の精神科以外受診は3割負担であえぐ本人と家族、「障害のために必要とする保健サービス」の提供を受ける権利実現は道遠しの現実だ。(伊東記)

~\*\*\* 《平成26年度通常総会 2014年7月1日》概略報告 \*\*\*~
(出席14名、委任状3名/正会員総数17名)
◇平成25年度 事業報告・収支決算報告、業務・会計監査報告...議案書どおり可決
◇理事7名、監事2名を選任
新役員 理事長 伊東 久雄 理事 日崎 廣司 理事 赤松 敬一 理事 北上亜矢子
副理事長 新銀 茂 理事 茂木美知子 理事 門脇 深雪
監事 小河 善則 監事 竹内 省三
《やすらぎ工房新施設長 紹介》
平成24年7月から施設長、25年6月から理事として尽力された宮本 昭男氏が自己都合で退職され、今年4月からは、サービス管理責任者・元副所長の門脇 深雪氏が新施設長に赴任している。